

大津市民病院 地域医療連携室 だより ●第21号●



泌尿器科 診療部長 七里 泰正

当院泌尿器科は、日本泌尿器科学会および京都大学医学部泌尿器科学教室の基幹専門医教育施設のひとつで、常勤医師3名と非常勤医師1名で1日平均約50例の外來診療および年間約500件の手術をおこなっています。基幹施設として、ジエムザールやドセタキセルといった新しい薬剤プロトコールによる進行尿路上皮癌や前立腺癌に対する多剤併用化学療法や、進行腎癌に対する分子標

研修会のご案内

3月23日(水)「デジタル(CR)画像をより理解を深めるために」

フジメディカルシステム(株)

MS事業部 大島 裕二

17時半～放射線部

NST 勉強会のご案内

3月10日(木)「脳血管

障害を併発したII型糖尿

病患者の栄養療法」

内科:神内 謙至

3月24日(木)「急性腎

不全患者の栄養管理」

内科:磯野 元秀

17時半～9階会議室

筆記具・電卓ご持参下さい

的治療剤治療も積極的に
おこなっています。

当科のもっとも大きな特徴は、低侵襲で解剖学的構造に基づいた3CCDハイビジョンモニター下の腹腔鏡手術を手術治療の中心に設定していることです。滋賀県で最初に「腹腔鏡下前立腺全摘除術」保険診療認定施設に登録されたのは当院でした。現在、前立腺癌(30)、腎癌(20)、副腎腫瘍(15)手術(括弧内数字は平均年間症例数)の90ないし95%以上は腹腔鏡下手術でおこなっており、副腎腫瘍に対しては2010年よりさらに低侵襲化した単創(孔)式腹腔鏡下手術も開始しました。

PSA検診の普及で早期・

若年者の前立腺癌症例数は増加傾向にあります。新しい核種、照射方法の放射線治療も広くおこなわれていますが、EAUなど欧米のガイドラインでは早期前立腺癌にもっとも有用とリコ

メンドされている治療法は前立腺全摘除術です。前立腺摘除後の排尿機能や性機能犠牲を最小限に抑え、良好な制癌効果の期待できる腹腔鏡下前立腺全摘除術が、将来の一般総合病院におけるロボット手術臨床につながるかと考え日々研鑽を心がけています。より低侵襲になったハイビジョン腹腔鏡下手術の適応患者様のご相談、ご紹介など承りますので、どうぞよろしくお願ひします。



事務局長 橋本 陽紀

立春も過ぎ、暖かい日差しが待ち遠しい今日この頃でございますが、懸念されていきましたインフルエンザもやや下火となる兆しを見せています。

1月には、新年のご挨拶を兼ねて、地域医療を共に支えておられます地域の先生方を訪問させていただきました。このような訪問は数年前にもさせていただきましたが、残念ながら継続するには至りませんでした。先生方の対応に一抹の不安を抱く中ではありましたが、お忙しい診察時間を割いていただき、直接先生とお話が出来ましたことに大変感謝いたしますとともに、市民病院への期待度の大きさを

に地域の中核病院として、また地域医療支援病院として果さなければならぬ役割と責任を改めて痛感した次第でございます。

当院では、昨年8月に新たに「消化器内視鏡センター」を開設し、同10月には滋賀県知事より「地域がん診療連携支援病院」に指定されるなど、患者中心の質の高い医療を目指して着実に一歩を進めております。また、新たな「健診センター」の整備が現在進行中で、この4月からは人間ドックの受け入れ人数が増加し、受診待ち日数の短縮が図れるものと思っております。まだまだ多くの課題はございますが、地域の先生方に情報を発信し、連携を密にしながら、信頼される市民病院を目指して精一杯頑張っていきたいと存じますので、引き続きご支援とご指導をよろしくお願ひ申し上げます。